

自然遊学館 だより

2002 夏号 (No.24)

2002. 7. 22

貝塚人工島埋立地でコミミズクを確認

2002年4月7日朝、同地にてコミミズクを確認しました。コミミズクは1～4月上旬に全国の海岸や川岸の広い草地に渡ってくる全長40cm位の冬鳥です。フクロウ類は夜に活動するイメージがありますが、コミミズクはむしろ夕方や早朝に活動することが多いそうです。私が確認したのも午前7時半～8時半でした。

コミミズクは人工島北東岸にある草地とアスファルトを仕切る鉄索上に止まっていて、遠くから大きな鳥の姿を確認した私は「何だろう？トビにしては小さいな」と思って車で接近した所、なんとフクロウの仲間ではありませんか！とっさにダッシュボード内の双眼鏡を取り出し（常に入れてあります）、見るとTVや図鑑で見たコミミズクそっくり。車から降りなければ野生動物はあまり逃げない”という経験を活かし、低速でゆっくり近づくと約3.5mの距離まで近づくことができました。捕虫網があれば捕まえられそうな距離です。

その後30分、車窓に頬杖つきながらずっと観察するという至福の時を過ごすことができました。コミミズクは真横を向いて6～7秒キョロキョロしては反対側向いてキョロキョロ…ということを延々と繰り返し、

時折くちばしで羽繕いをしたり、大きな爪で頭や首を搔いたりしていました。

また、日差しが眩しすぎるのか半分目を閉じていることが多かったです。この表情、見た目には寝ぼけた表情に見えて愛らしかったです。その後飛び立ったコミミズクは草地の上を低く飛び回り、時に餌となるネズミか昆虫でも見つけたのか、羽ばたきながら空中停止し急降下するというシーンも見せてくれました。餌の捕獲には失敗していたようですが。

貝塚人工島では今までにノスリやチョウゲンボウも確認されているそうで、他にもまだ色々飛来してきている可能性もあります。みなさんも今度の冬、双眼鏡を持って人工島の草地へ出かけてみてはいかがでしょうか？



コミミズク

(綿石慶太)

トンボ池のヤゴ調査

2002年4月13日に、貝塚市市民の森内の自然生態園・トンボの池において、ヤゴ調査を行いました。調査は、2名が15分間タモ網で採集する定量調査とその他の参加者による任意調査の2つの方法で行いました。以下、定量調査の結果は種名と個体数、任意調査の結果は種名のみを示しました。

定量調査（調査者：渡部哲也・岩崎拓）

アオイトトンボ科

アオイトトンボ 143

イトトンボ科

アオモンイトトンボ 2

ヤンマ科

ギンヤンマ 1

クロスジギンヤンマ 3

マルタンヤンマ 1

トンボ科

アカネ属の一種 3

シオカラトンボ 5

ショウジョウトンボ 2

合計 160 個体

任意調査

イトトンボ類、ギンヤンマ属、マルタンヤンマ、アカネ属、ショウジョウトンボ、シオカラトンボ

その他に、アメリカザリガニ（22 個体）とクサガメ（1 個体）が採集されました。

（岩崎 拓）

近木っ子探検隊ハイキング

「水間～馬場の春を楽しもう」

2002年4月20日に、快晴の下、水間～馬場蓮池まで、自然観察をしながらハイキングを行いました。講師として、貝塚市立自然遊学館の前館長である上久保文貴先生を迎え、自然遊学館のスタッフと併せて参加者は22名でした。

午前10時に水間寺境内（厄除橋）に集合して、水間公園を通り、遍照寺を經由して蓮池までの道のりを歩きました。植物は上久保先生に尋ね、昆虫は遊学館の顧問である保田先生に尋ねながら観察をしました。皆さんかなり熱心に質問をされており、自然に対する興味が大きく、上久保先生や遊学館職員も喜んでいました。

蓮池に着いてから昼食。みんなで春の休耕田に咲くレンゲや目の前に広がる風景を楽しみながらの昼食でした。昼休みには周辺を自由散策し、奥の湿地でトンボを採集したり、蓮池よりも少し高い場所にある池で採集したりしていました。

午後2時、蓮池を出発し、遍照寺を通り、稲谷川沿いに水間に向かいました。途中で稲谷川の中洲（？）に造られていた堰に捕らわれていた魚の脱出を助けるというハプニングもあり、帰路も皆さん充実していました。そして午後3時、水間寺の境内で解散し、無事ハイキングは終了しました。

今回のハイキングで観察された植物や昆虫を以下に示します。この表で（花）としてあるのは、この観察会で花が咲いていた樹木を示しています。

(植物)

水間寺第2駐車場付近～公園

イヌノフグリ、シラスゲ、オヤブジラミ、イタドリ、カラスノエンドウ、ヤエムグラ、ハコベ、ウシハコベ、オオバコ、ツボミオオバコ、タチイヌノフグリ、トボシガラ、ミゾイチゴツナギ、セイヨウタンポポ、オオイヌノフグリ、フラサバソウ、ツユクサ、センニンソウ、オニタビラコ、ノゲシ、カタバミ、ハナイバナ、キュウリグサ、ヤブニンジン、オオアレチノギク、コブナグサ、クサイ、ナズナ、アラカシ(花)、コナラ(花)、キリ(花)

公園～遍照寺

スズメノヤリ、カンサイタンポポ、クサイチゴ、ベニシダ、トラノオシダ、アオスゲ、イヌシダ、コハシゴシダ、モチツツジ、モウソウチク、ヒカゲスゲ、フユイチゴ、イヌビワ、カナメモチ、コマユミ、カゴノキ、アベマキ(花)、コナラ、コウヤボウキ、カクミノスノキ、シャシャンポ、ミツバアケビ、アケビ、ギンラン、ヤマモモ、サルトリイバラ、ツルウメモドキ、ナキリスゲ、コバノガマズミ(花)、ヤマスズメノヒエ、カスミザクラ、モエギスゲ、ヤブニンジン、ジュズスゲ、オヤブジラミ、イノモトソウ、タチツボスミレ、ホンモンジスゲ、ヤエムグラ、オクマワラビ、ヒメウズ、コウゾ(花)、ウラシマソウ、ホシダ、ヤマムグラ、ヒサカキ、キランソウ、シュウメイギク、イワヒメワラビ、ワラビ

遍照寺～蓮池

カラスノエンドウ、スズメノエンドウ、カスマグサ、スズメノテッポウ、ヒメオドリコソウ、セトガヤ、キュウリグサ、コオニタビラコ、ハハコグサ、セイタカアワダチソウ、ム

ラキササギゴケ、ムシクサ、カズノコグサ、レンゲ、キツネアザミ、アメリカフウロ、ナルトサワギク、ヨモギ、ギシギシ、スイバ、トキワハゼ、オオイヌノフグリ、オヘビイチゴ、ヨメナ、ヤブチョロギ、オランダミミナグサ、ハコベ、ナズナ、マメカミツレ、ノチドメ、ウマノアシガタ、セリ、ノアザミ、アオスゲ、コメツブツメクサ、マツバウンラン、ケキツネノボタン、キツネノボタン

蓮池～奥の湿地～上出橋

オニウシノケグサ、イヌガラシ、アリアケスミレ、ヤマツツジ、トネリコ、コオゾリナ、ヤブチョロギ、カキドオシ、ウマゴヤシ、イ、ヒメガマ、セリ、ドクダミ、スギナ、セイタカアワダチソウ、オオイヌノフグリ、タチイヌノフグリ、タネツケバナ、キツネノボタン、ヤブカンゾウ、アオスゲ、ミミナグサ、オランダミミナグサ、ヨモギ、オオバコ、ツボミオオバコ、ホソイ、キュウリグサ、ヒメジョオン、ニガナ、カナビキソウ、アリアケスミレ

(昆虫)

水間寺第2駐車場～公園

ニシカワトンボ、メスアカケバエ、チビクワガタ、クロアゲハ

公園～遍照寺

モリチャバネゴキブリ、マルカメムシ、イトカメムシ、オオオサムシ、チビクワガタ、ナミテントウ、ナナホシテントウ、ヘリグロベニカミキリ、カグヤヒメゾウムシ、ニホンカブラハバチ、ベッコウカガンボ、コムシジ、ヒメウラナミジャノメ

遍照寺～蓮池

ホソミオツネントンボ、シオヤトンボ、カ

ミムラカワゲラ、マルカメムシ、モンシロ
ナガカメムシ、ピロウドサシガメ、ツマグ
ロヨコバイ、オオオサムシ、ゴミムシ、ウ
スチャコガネ、ヨツボシテントウダマシ、
ナミテントウ、ナナホシテントウ、モモブ
トカミキリモドキ、ヒメスギカミキリ、ヘ
リグロベニカミキリ、ムツボシツツハムシ、
ウリハムシ、クロウリハムシ、キコシボソ
ハバチ、セグロアシナガバチ、メスアカケ
バエ、モンシロチョウ、キチョウ、モンキ
チョウ、ツマキチョウ、ベニシジミ、ヒメ
アカタテハ、ヒメウラナミジャノメ、ヤマ
キマダラヒカゲ、キマダラツバメエダシャ
ク

合計 8 目 28 科 41 種が確認されました。

(澤田義弘)

「みどりの日」市民ハイキング

～和泉葛城山山道に咲いていた草花～

2002 年 4 月 29 日みどりの日、毎年春に恒
例の貝塚市社会体育課主催、和泉葛城山美化
登山が行われました。山頂まで登りきれば、
おいしい豚汁が待っている人気の行事です。
今回の登頂コースである蕎原町会館から登
山道 B コースの和泉葛城山迄の道中で、いろ
いろな草花が咲いていましたので、この時期
に咲く花として紹介します。

(アケビ科) アケビ、ミツバアケビ

(スイカズラ科) コバノガマズミ

(キンポウゲ科) ウマノアシガタ

(アブラナ科) オオバタネツケバナ

(ユキノシタ科) ネコノメソウ

(バラ科) クサイチゴ、ヘビイチゴ

(マメ科) フジ

(ユリ科) チゴユリ

(アヤメ科) シヤガ

(サトイモ科) マムシグサ

(シソ科) カキドオシ、キランソウ

(ゴマノハグサ科) キリ、オオイヌノフグリ

(スマレ科) タチツボスマレ、シハイスミレ

(キク科) テイショウソウ

(セリ科) ヤブニンジン、オヤブジラミ



チゴユリ

(山田浩二、湯浅幸子)

ヒカリアシナガグモ、貝塚で発見！！

この春、自然遊学館の自然生態園「トンボの池」(市民の森内)では、羽化中のアオイトトンボがクモに襲われ、頭部だけを食べられているのをよく見かけました。

5月8日、松崎真理さんが、そんなクモを、現行犯逮捕して持ってこられました。アシナガグモのなかまと判明しましたが、同定を追手門学院大学西川喜朗教授に依頼しました。「見はじめのクモでびっくりしました。ヒカリアシナガグモ *Tetragnatha nitens* の♀でした。感激でした。石垣島・沖縄島・奄美大島からの記録があります。大阪府では初めてでしょう。」

との返事をいただき、みんなびっくり。そう言えば腹部はすこし黄色っぽく、初めて見るクモでした。同定依頼した標本は、ヒカリアシナガグモ以外では、ヤサガタアシナガグモ *Tetragnatha maxillosa* 1♂1♀とアシナガグモの1種(1幼体)とわかりました。

その後採集した個体は、

・5月15日 アシナガグモ1♀、ヒカリアシナガグモ1♂、ヒカリアシナガグモ幼体1♂

・5月16日 ヒカリアシナガグモ2♀、ヒカリアシナガグモ亜成体2♀

いずれも西川先生に同定していただきました。巻末には、西川先生からいただいた図を掲載しました。

(白木江都子)

近木川河口～二色浜

渚の生きもの観察会

2002年5月11日薄曇り、近木川河口から二色の浜にかけて海辺の生きもの観察会が催されました。講師に大阪府立水産試験場の鍋島靖信氏を迎え、総勢60名余りが参加しました。

はじめに、潮がひきつつある近木川河口の渚を目の当たりにして、潮の満ちひきと月の引力との関係などのお話を伺ってから、二色浜を見出川側まで約1キロ歩いて移動しました(近木川側の浜は潮干狩りのため立ち入り禁止)。

人のあまり踏み歩かないこちら側の浜は、海浜植物などが比較的に残り、ハマヒルガオやコマツヨイグサの花が辺り一面にきれいに咲いていました。そしていよいよ波打ち

際に近寄り、打ち上げられた海藻についてワレカラや、砂の中のイソミミズなど発見していきました。ズボンを濡らし、タモ網でガッチョ(ハタタテヌメリ)など魚を捕らえたり、石積み護岸でカニ、貝を採集したりしました。

昼食後は近木川の河口に移り、転石をひっくり返してケフサイソガニやユビナガホンヤドカリを見つけたり、スコップで穴を掘り、ゴカイ類を採集したりしました。干潟の砂泥中に生息する3センチ程のヒモイカリナマコも見つかりました。

以下に講師、スタッフにより確認した採集生物の種名を記します。

二色浜(見出川側)

陸上植物……コウボウムギ、コウボウシバ、ハマヒルガオ、ハマボウフウ、ホコガタアカザ、ツルナ、オカヒジキ、コマツヨイグサ、アレチマツヨイグサ、イネカキネガラシ、シロバナマンテマ、シロバナシナガワハギ

海藻……アオサ、オゴノリ、タマハハキモク
刺胞動物門……ミズクラゲ、タテジマイソギンチャク

扁形動物門……ミノヒラムシ

軟体動物門……マガキ、アサリ、コシダカガンガラ、イシダタミガイ、ムラサキイガイ、レイシ、イボニシ、タマキビガイ、コガモガイ、カラマツガイ

環形動物門……イソミミズ

節足動物門……マルエラワレカラ、オオワレカラ、ユビナガホンヤドカリ、ケフサイソガニ、ヒライソガニ、イソガニ、モクズガニ

脊椎動物門……ヒメハゼ、ハタタテヌメリ、

イシガレイ、マフグ

近木川河口

海藻……ウスバアオノリ、スジアオノリ、
タオヤギソウ、カバノリ

環形動物門……フサゴカイ

軟体動物門……タマキビガイ、ムシロガ
イ、マガキ

節足動物門……ニホンモバヨコエビ、イ
ソダンゴムシ、シリケンウミセミ、フナム
シ、ユビナガホンヤドカリ、ケフサイソガ
ニ、チチュウカイミドリガニ、モクスガニ

棘皮動物門……イトマキヒトデ、ヒモイ
カリナマコ

脊椎動物門……クサフグ



手のひらで伸びるヒモイカリナマコ

以上、陸上植物 12 種、海藻類 7 種、渚の動
物 36 種が確認されました。

(山田浩二)

館長と科学遊びをしよう

2002 年 5 月 18 日 (土) PM2:00~4:00、
遊学館多目的室で 20 人 (大人 4、子供 16)
が「館長と科学遊びをしよう」に参加しまし
た。内容は、浮き沈みする卵・こぼれる牛乳
ビンこぼれない牛乳ビン・氷をつる・はさみ

でガラスを切る・三色ラーメンを食べよう、
といった 5 つの遊びです。今回も、出来るだ
け身近な題材で、身近に手に入る器具・道具
を使って、平素から何気なく見ていることで、
なぜ?と疑問を抱いていただろう課題・題材
を選んで計画しました。また一題は口を楽し
ませる内容に、と考えて今回の実験内容とな
りました。

まず、館長が今日の予定に次いで、実験実
習時の安全について注意すべきことを説明
しました。

三々五々集まった子どもたちは狭い何の
設備もない当館の多目的室を見渡し、机上に
準備されたペットボトル・鍋・コップ等、自
分たちの家で見慣れた品々に「科学」とはか
げ離れた感を抱いた感じでした。

手品まがいの傾けてもこぼれない牛乳ビ
ンや、卵が浮かんだり沈んだりする訳は、水
中の塩分の濃さだった事を自分たちで確か
めていました。しかし、普通のはさみでガラ
スを切るにはどうする?という命題には大
人も子どもも一所懸命考えていました。深め
の水槽の底で切って見せると、我も我もと争
って体験しようとしていました。紫キャベツ
の煮汁でゆがいたかん水中華そばは、元色は
黄・ゆがくと紫・これに酢を加えるとピンク
色になります。このゆがいたかん水中華そば
を、おいしい麺つゆを加えて、みんなで食べ
ました。

(福本泰承)

木積クヌギ調査

～あの樹木の現在を訪ねて～

遊学館に常設展示しているクヌギの樹液

に集まる昆虫の写真は、以前研究員をしておられた中谷憲一さんが撮影されたものです。この展示写真を見て「貝塚にもこんな樹液の出る木があるのですね」と驚かれることがあり、中谷憲一さんに正確な場所を尋ねたところ、「現場に行けば思い出すかもしれない」とのことで、現在の研究員の山田浩二さんと3名で5月8日に木積新池の北側周辺を探索することになりました。中谷さんは途中でクヌギがあった場所をはっきりと思い出されたのですが、残念ながらその場所にはクヌギが生えていた痕跡すら残っていませんでした。その周辺では農地の区画整理が行われているのですが、その区域に入っていないので、区画整理で切られたわけではありません。根の痕跡がまったくなかったので、台風か何かで倒れて除去されたのではないかと想像されます。当日はあいにくの雨模様で、きちんと採集道具を持っていったわけではないですが、観察あるいは採集された昆虫やその他の動物の記録を記しておきます。

チョウ目 ナミアゲハ、クロアゲハ、モンシロチョウ、キチョウ、ベニシジミ、ヤマトシジミ、ヒメウラナミジャノメ

トンボ目 ハラビロトンボ

バッタ目 ヒメギス幼虫、キリギリス幼虫、ヒシバッタ属、ヒナバッタ、ショウリョウバッタモドキ幼虫

カマキリ目 オオカマキリ幼虫

カメムシ目 エビイロカメムシ、ホソハリカメムシ、ホソヘリカメムシ、セイタカアワダチソウヒゲナガアブラムシ、オオアメンボ(ため池)

コウチュウ目 ナナホシテントウ、ジョウカ

イボン、シロコブゾウムシ、サビキコリ
その他の動物 アマガエル、ヌマガエル、カナヘビ、ウスカワマイマイ、ケリ、ウグイス、ツバメ、ヒバリ



かつてクヌギのはえていた場所

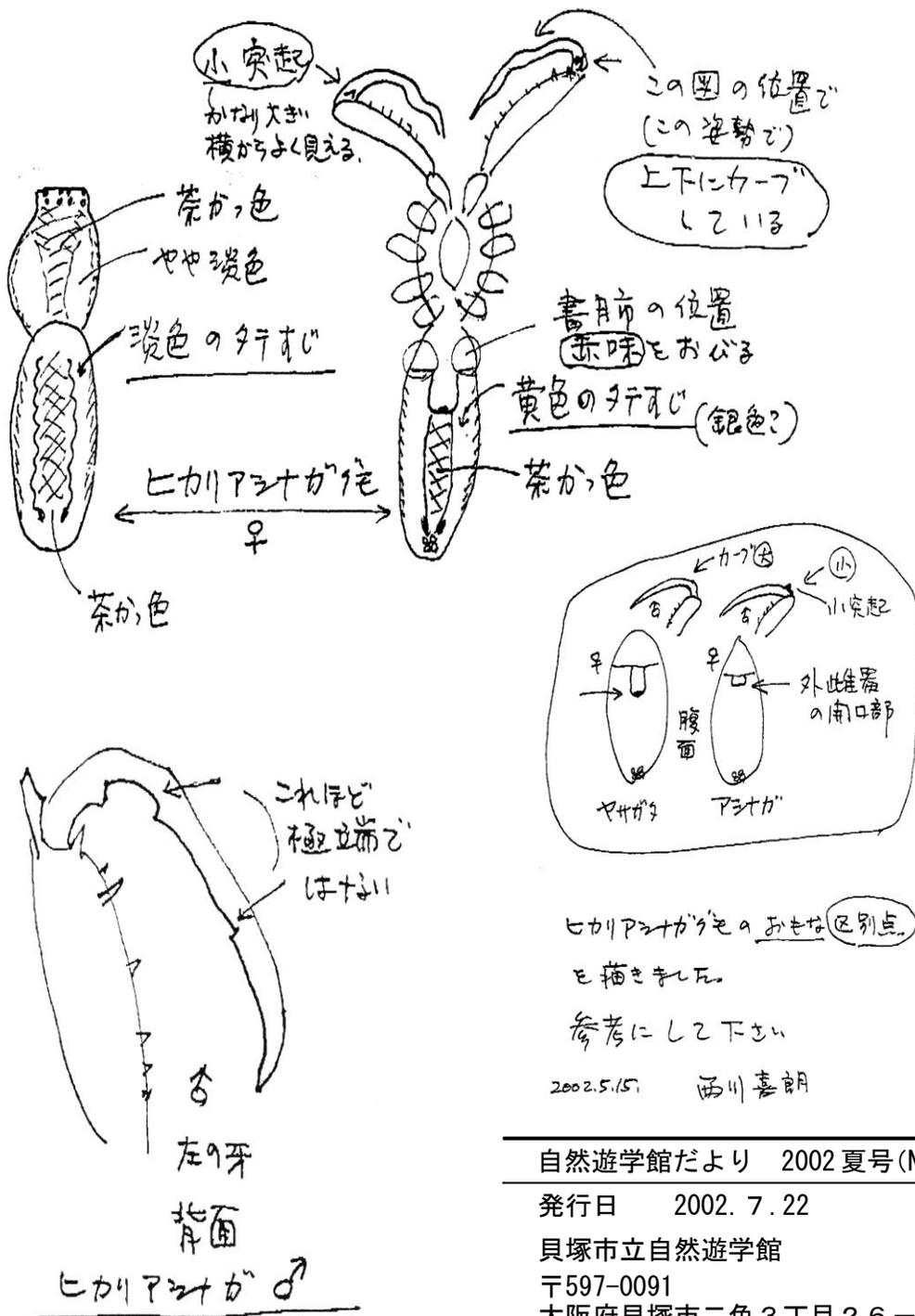
(岩崎 拓)

貝塚市立自然遊学館夏季特別展のお知らせ

貝塚市立自然遊学館では、当館に隣接する閑空交流館の2階で「菊池コレクション展」を、7月19日より開催します。見学できる時間は10:00～17:00で、休館日は火曜日と第2・4木曜日です。ただし、7月29日～31日は資料整理のため、休館となっております。

展示する標本は、故菊池行道さんのご遺族の方から寄贈いただいたコレクションの一部で、チョウ・甲虫・蛾類の約1300点が寄贈されましたが、今回はその内のチョウ類だけを展示しております。また、寄贈標本は日本各地から採集された種や、近年では天然記念物に指定され採集禁止になった種を含み、台湾、韓国をはじめ海外のものも多く含まれ、きわめて貴重な物です。是非ご家族でご覧下さい。

(付録) 西川先生直筆のヒカリアシナガ
グモの特徴



自然遊学館だより 2002 夏号 (No. 24)
発行日 2002. 7. 22
貝塚市立自然遊学館
〒597-0091
大阪府貝塚市二色 3 丁目 2 6 - 1
Tel. 0724 (31) 8457
Fax. 0724 (31) 8458